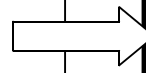
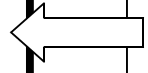


# 八王子市立石川中学校「平成18年度授業改善推進プラン」

【八王子市教育委員会教育目標】  
「あふれる元気」健康な心身・活力  
「かがやく心」豊かな知性と感性・個性  
「仲間とともに」協調性・社会性  
「はばたけ未来へ」意欲・積極性の育成に向けた教育を推進する。



[教育目標]  
1, よく考え勉強する。  
2, 心を広くもつ  
3, からだをきたえる。



1 地域の実態  
学区は新しい住宅地として急速に開発され、学校教育に関心が高く、教育課程の遂行や学校行事には協力的である。  
2 地域・保護者の期待や願い  
確かな学力の定着。また、行事や部活動の充実への期待も高い。  
3 期待される子ども像  
何事にも意欲的に取り組む生徒。思いやりの心を持ち、互いに認め合い支えあう生徒。挨拶のできる生徒。けじめある行動が取れる生徒。



本年度本校における学力向上のための重点  
・習熟の程度や興味、関心に応じ、体験的な活動を重視するなど多様な教育方法を導入、拡充し、基礎的な学力の向上を図る。  
・自ら考え、主体的に判断し、節度ある学校生活の出来る生徒の育成を目指す。



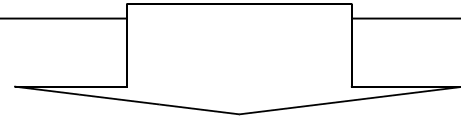
「八王子市学力定着度調査」の結果、「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の結果（東京都実施、中学校のみ）等を踏まえて

（学校の特色としてさらに伸ばしたいこと）

- ・基礎的、基本的な内容を理解させるとともに、多様な学習形態を取り入れるなど授業の改善、充実を目指し、個性を生かす指導を工夫する。
- ・読書活動を委員会活動や地域との連携を図りながら推進する。
- ・保育園、児童館でのボランティア活動、地域での清掃などを通して自主的、実践的な態度を養うことにより、日々の学習活動においても、自ら進んで学ぼうとする力を強化していく。

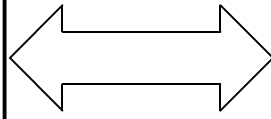
（学校の課題として取り組むべきこと）

- ・家庭や地域との連携を密にする（保護者会・教育相談・学校公開など）ことにより、保護者や地域の協力を得ながら、家庭学習や自主学習の充実を図る。
- ・単元別テストや小テスト等を活用することで、生徒一人ひとりの学力定着の度合いをしっかりと把握する。
- ・学ぶ意欲を引き出す、評価計画のあり方の研究につとめる。



《平成18年度中に実施する具体的な取り組み》

- ・毎日の朝読書の充実
- ・単元別テストの実施
- ・放課後や長期休業中の補充学習
- ・授業改善の研究
- ・研究授業などお互いに授業を見せ合い研究に努める



《平成19年度教育課程編成に向けて参考にすること》

- ・授業時数の確保とそのための工夫
- ・体験的な学習や地域ボランティアの推進
- ・教科学習における教員相互の授業研究
- ・評価を生かした指導の研究

## 教科等の授業改善点

教科等	改 善 点
国 語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 古典の学習の際に、暗唱に力を入れ、名文の表現を身に付ける。その学習を通して、名文の特徴を発見し、自分の表現方法に生かしていく。</li> <li>・ 1学期の反省を踏まえ、一人一人の生徒に対する理解を深める。特に、少人数学級のクラスでは、生徒個人への発問を考え、生徒の基礎学力の向上を図る。</li> </ul>
社 会	<p>1年・自作のワークシートを作成し、授業に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2学期に研究授業を行う。</li> </ul> <p>2年・基礎。基本的な事項について丁寧に指導するとともに、理解できているかどうかを確認する。ノート、自主学習、レポート等の提出により、意欲も評価する。</p> <p>3年・東京都「学力向上を図るための調査」の結果を踏まえて、歴史の資料問題についての補強を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 都立入試までに、問題演習を継続的に行い、実力の完成を目指す。</li> </ul> <p>全体・ワークシートの作成や評価方法について、相互に情報を交換し、研修に努める。</p>
数 学	<p>&lt;基礎的・基本的な内容を理解させるために&gt;</p> <p>授業内容の理解度チェック 授業復習小テストの実施基礎の確認をすることで「わかる できる やる気」を育てる。</p> <p>活動を取り入れる。例1) トランプを使って「正負の数」の理解を深める。</p> <p style="padding-left: 40px;">例2) サイコロを使って大数の法則の理解を助ける。</p> <p style="padding-left: 40px;">例3) パソコンの活用</p> <p>文章題の題意が読み取れない 絵、図、表などを活用することで、問題のイメージを与える。新聞記事も活用。例) 正負の数、新聞では+、-の付いた数(正負の数)が新聞でどう扱われているか調べよう。</p> <p>関数では対応表を活用して、規則性を見つけ出させる。</p> <p>問題集・レポートの提出 自主学習・宿題の提出。出来の良さだけでなく、苦手な生徒の提出する意欲も評価する。</p> <p>&lt;多様な学習形態を取り入れる&gt;</p>

	得意な生徒への対応 選択授業では生徒の多様なニーズに応えるよう、コース開設をした。例) 数学検定対応コース、授業力応用コース 数学検定試験・年3回の実施。目的意識を持って数学に取り組めるようにする。 補習授業の実施
理 科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観察、実験、技能の基本捜査が十分に定着していない面も見られるため、基本操作を実際に繰り返しておこなうことで、理解してできるようにしていく。</li> <li>・グラフの取り組みが正確にできていない面も見られるため、実験結果をグラフにあらわしていくことを練習するとともに、グラフから何が読み取れるか、十分に理解をできるよう配慮していく。</li> <li>・基本的語彙の習得や理解の伸長をはかるため、引き続きワークや小テストなどを行っていく。</li> </ul>
音 楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎時の授業の中で、個人の能力を高められるよう、生徒に自己評価表を記入させ、一人一人に細かくアドバイスを与えていく。</li> </ul> 放課後や長期休業中の補修学習。毎時間の授業の充実。
美 術	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の作業進捗のバラツキが、さらに顕著となり、なお一層の授業内容、実技指導の進め方に精錬が必要となっている。1つの作品に複数の指導内容を盛り込み、効率化を図る。</li> </ul>
技術・ 家庭	<p>&lt;技術&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身のまわりにある道具・工具・機械の使い方等を指導する。具体的には、実習で基本的な使い方を十分に練習させて実技テストを実施する。</li> <li>・授業の中で積極的に取り組めるように、材料・工具・道徳の数を十分に確保して生徒が十分に能力を発揮できるように、授業環境を整える。</li> </ul> <p>&lt;家庭科&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自立的・自覚的の生活を送るために必要な関心や技術を高めるため実生活に即した実践的・体験的な授業の充実を図る。</li> <li>・基礎的な調理技術の習得を目指してスキルチェックを行い、個に応じた支援を行う。</li> <li>・被服実習において評価を工夫し、生徒の意欲の喚起に努めるとともに、自己評価能力を高められるようにする。</li> <li>・食生活への関心を深めるために、味覚体験的学習の工夫を図る。</li> </ul>
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習カードやレポート等の活用をより充実させることにより、自らの課題発見と克服する力を養い、授業の様々な場面で、そのための支援を出来るようにする。</li> <li>・年度初めに評価に関するガイダンスを設定して、理解させ、意欲を高める。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"><li>・お互いの授業を見せ合い、研究に努める。</li><li>・種目によっては学年・男女の枠を取り外し、複数教師でのグループ別指導の方法を工夫することにより、他を認め思いやる心をう。</li><li>・7月までに体育大会への取り組みを中心に集団行動を身に付けせ、自己の運動能力を知り、体力面も理解させる。また、安全に留意し挑戦する能力を育てる。</li></ul>
英語	<ul style="list-style-type: none"><li>・教科書本文の暗唱を随時行う。</li><li>・学級全体の前で英文を発表する。</li><li>・教科書の対活文を暗記し、外国人講師と話す。</li><li>・教科書本文の暗記をするために、毎時間音読をする。</li><li>・レッスン毎にノートを提出させ、チェックする。</li><li>・単語テスト(動詞の活用を含む)・英文テストをする。</li></ul>
総合	<ul style="list-style-type: none"><li>・体験的な学習の充実につとめ、様々な人との交流の場を設ける。</li><li>・自らの将来を考えて中学校生活の3年間を送ることが出来るようにする。</li><li>・発表に新聞形式、レポートなど自分の考えが発表できるように工夫する。</li></ul>